



英会話サロンは新座、文京の両キャンパスにあり、週4日90分オープンしている。新座キャンパスでは1日15人程度、文京キャンパスでは10人程度の学生が訪れ、生きた英語表現を学ぶ。

語学力と異文化理解力を育む 海外研修プログラム

研修先	期間	内容
スターリング大学 (イギリス)	夏期:約4週間 春期:約7週間	・リスニング、スピーキングを中心に、1日3時間半の英語授業 ・スコットランドの歴史学習
ロイヤルローズ大学 (カナダ)	夏期:約4週間	・語学研修(1週間) ・非営利団体などでの社会活動(3週間)
国立政治大学 (台湾)	夏期:約3週間	・1日3時間半程度の中国語授業 ・文化ワークショップ、アクティビティ
西部カトリック大学 (フランス)	夏期:約4週間	・外国人向けフランス語コースの履修 ・文化活動、アクティビティ
ローワー コロムビアカレッジ (アメリカ)	春期:約3週間	・語学研修のほか、 市役所・企業訪問、市議会傍聴等 地域コミュニティを学ぶ

*英語以外を活用する研修も含む

英語に対する意欲を入学前から高めたい
—— 取り組んだ結果、見えてきた課題について教えてください。

まず、現状、学習成果の数値的な測定は行っていないので、今後は外部検定試験を使って定期的に測定することも検討しています。また、全学共通科目でネイティブ講師による授業を選択する学生

自由な会話できるサロンで、私が自ら発案したものです。授業で身に付けた英語スキルを実際に使う場所として位置付けています。経験上、リラクセスした環境で外国語を話すほうが上達につながるとわかっていきますから、昼休み時間に開放して、お弁当を食べながら会話できるようにしています。

サロンに常駐する教員も、ベルリッツの講師にお願いしています。訪れる学生の英語力はまちまちです。柔軟な対応が求められるので、サービス精神にあふれたプロの英会話講師がよいと判断しました。本学は2010年から積極的に海外研修を増やしています。が、英会話サロンは海外研修参加への動機付けになっているのではないかと思います。

学生が卒業後、どのような職業に就くとしても、英語の必要性は間違いなく高まります。今後より多くの学生が英会話スキルを高め、「英語が話せる」という自信が持てるような学習環境を整えていきたいです。

2017年度入試からは、AO入試にGTECなどの英語4技能検定のスコアを活用した方式を導入します。この方式で入学した学生には、英語の授業でほかの学生をリードしていく存在になってもらいたいと考えています。

—— グローバル化をめざす大学関係者にメッセージをいただけますか。

スピード感を持ってカリキュラムの改訂を行うには、トップダウンで進めるしかないと思います。学長が教職員の先頭に立って、リーダーシップを取る姿勢がないと実現はなかなか難しいでしょう。

*日本語を使わず、習得したい言語のオーラルコミュニケーションのみで会話を学習させるメソッド

一步先を行く大学に聞きました!



跡見学園女子大学



跡見学園女子大学学長
山田 徹雄

やまだてつお ● 1947年神奈川県生まれ。1971年早稲田大学商学部卒。1975～77年エランゲン・ニュルンベルク大学に留学。1979年早稲田大学大学院商学研究科博士課程満期退学後、跡見学園女子大学専任講師就任。入試部長、副学長を経て、2010年4月より現職。

オーラルコミュニケーションを重視し シンプルな英語を使った発信力を養成

教養実践力の 一つとしての英語力

—— 近年、英語教育の拡充に取り組む理由を教えてください。

私は本学がめざす教育を「教養実践」という言葉で表現しています。これは、「教養教育を行いな

ければなりません。英語教育に力を入れてるのは、グローバル化が進む時代の中で、長期的に役立つ「教養」を身に付けさせたいと考えているからです。

—— どのようなグローバル人材の育成をめざしていますか？

「グローバル人材」単に英語が話せる人間」とは考えていません。とはいえ、英語は世界共通語であり、非英語圏を含めた異文化交流、異文化理解に不可欠なのは間違いないから、ブロークンイン

「グローバル人材」単に英語が話せる人間」とは考えていません。とはいえ、英語は世界共通語であり、非英語圏を含めた異文化交流、異文化理解に不可欠なのは間違いないから、ブロークンイン

ネイティブとの会話を 通じてスキルを磨く

—— 具体的な取り組みについて教えてください。

2006年度からベルリッツと提携し、全学共通の外国語科目にネイティブスピーカーによるオーラルリッッシュの授業を導入しました。外国語科目はこのコースのほか、日本人教員による英語演習コース、英語+その他の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮・韓国語)を学ぶコースがあり、学生は自分の学修目標に合わせて、いずれかを選択できるようになっています。

ベルリッツと提携した理由は、同社のダイレクトメソッドを評価したためです。私自身、外国人との会話を通じてドイツ語やフランス語を習得したので、効果が高いことを実感しています。以前は、英米文学を専門とする教員が英語の授業を担当しており、文学的なテキストを読むのが中心の授業でした。旧来の文献講読型だけでなく、シンプルな英語を使つてのコミュニケーション力を養成する授業をめざしています。

—— 2010年からは、キャンパス内に英会話サロンを設置しています。

これはネイティブスピーカーと

グリッッシュでもよいので、きちんと意思疎通ができるレベルの英会話スキルを身に付けてほしいと思っています。

私は、「英語を使って日本の歴史、文化、政治、社会を説明できること」が、グローバル人材の素養の一つであると考えています。昔は西洋の文化・学問の輸入が重視されていたので、「外国語で書かれた文献を読み解けるようになること」が語学習得の大きな目的でした。しかし、今の学生はむしろ、英語を使って海外に日本文化を発信することが求められます。

特に現代日本の特徴的な文化であるポップカルチャーや和食などを語るためには、非アカデミックな英語表現も身に付ける必要があるのでしよう。拙い英語であっても外国人とコミュニケーションが取れるという経験を持てば、自信にもつながります。本学が近年、英会話能力を養成する取り組みに特に力を入れているのは、こうした考えがあるからです。

は全体の20%程度と、それほど多くはありません。この割合を高めるために、入学者の英語学習に対する意欲を高めようと、入学前ガイダンスで英会話サロンや海外研修を周知するほか、オープンキャンパスで、ネイティブ講師による体験授業や、海外研修参加者の体験発表をしています。

2017年度入試からは、AO入試にGTECなどの英語4技能検定のスコアを活用した方式を導入します。この方式で入学した学生には、英語の授業でほかの学生をリードしていく存在になってもらいたいと考えています。

—— グローバル化をめざす大学関係者にメッセージをいただけますか。

スピード感を持ってカリキュラムの改訂を行うには、トップダウンで進めるしかないと思います。学長が教職員の先頭に立って、リーダーシップを取る姿勢がないと実現はなかなか難しいでしょう。

教養実践力向上に向けた語学教育の改革

カリキュラム改訂	【開始年】2006年～ 【概要】1、2年次の全学共通の外国語科目に、ネイティブスピーカーによるオールイングリッシュの授業を導入(選択制)。2015年からは外国語必修単位数を12単位から16単位へ増加。
英会話サロン設置	【開始年】2010年～ 【概要】学内にネイティブの講師が常駐する無料の英会話サロンを設置。学生であれば誰でも利用できる。 【オープン時間】(新座キャンパス)12:15～13:45(月～木曜) (文京キャンパス)12:00～13:30(月・火・木・金曜)
海外研修プログラム拡充	【開始年】2010年～ 【概要】約3～7週間の海外研修プログラムを増設。 【主な研修先】イギリス、カナダ、台湾、フランス、アメリカなど。

取材・文/本間学 撮影(山田徹雄学長)/佐藤勲